



# 校長室だより

令和8年度

6月26日

NO. 12

## 秦梨の夏がやってくる。キラキラとした楽しさをつかめ！

「自分で掴みに行く楽しさというのは、レベルが高く味わい深いものなんだと思います。主体性を持つとは自覚的に選択することであり、それが『楽しむ』という感覚の核心にあります。」

『スポーツは人生に必要ですか』  
(ハヤカワ新書) 森林貴彦・為末大著



秦梨っ子のプールがスタート。秦梨の畑もにぎやかです。「カイコ」学習のまとめの掲示見てください。

梅雨の合間で少し肌寒く感じることはありませんが、秦梨小にも着実に夏は近づいています。きれいに咲き誇ったアジサイも色を落とし疲れた様子です。三、四年生の育てていたカイコもきれいな繭を作り、育っていきました。畑の野菜も元気に葉を彩らせ、今年もコンニャクが樹木のような芽を伸ばします。

夏の代名詞、プールでの授業も始まりました。秦梨っ子も、「水の中のが温かい」と言いながら、目をキラキラさせて水しぶきを浴びます。日本では学校にプールは当たり前ですが、外国では珍しいそうです。水泳もやらなくていい国や地域もあるそうです。日本は海に囲まれ、河川も多く（最近では大雨も多く）水の危険と隣り合わせの国なので水泳が必修科目となったと言われますが、それより「夏だから」の方がピンとききます。

半面、プールを取り巻く状況は変化しています。プールの老朽化に伴う管理運営面での課題により、プールに入れない学校もあると聞きます。岡崎市でも学校でなくスイミングスクールで水泳の授業を行う学校が増えてきました。水の危険が増える中、水泳の役割は依然として重要ではあります。果たして昨今の災害に今の水泳が役に立っているのか、二十五m泳げることに意味はあるのかという意見もあります。

けれどもプールを通して得られるのは、それだけではありません。私自身、初めて二十五m泳げた喜びを今も覚えていますし、暑い夏のキラキラ輝く水面の美しさは常に心を躍らせます。水の気持ちよさや思い切り身体を動かすこと、目標達成に向けて我慢することや上手に泳ぐためにいろいろ挑戦すること等々……、「水」という自然と向き合い、自分の目標を手に入れる「楽しさ」を味わえる夏なることを期待します。

- ・本日の学校保健委員会へのご参加、ありがとうございます。講師の湯浅先生は、運動科学の第一人者で、著名なオリンピック選手などにもご指導されており、多くの著書も出されています。今日のことを、御家庭でも話に出していただき、継続して実践していただけたらいいと思います。
- ・18日には1~4年生がおかざき世界子ども美術博物館へ造形教室に出かけました。24日には6年生が岡崎法人会の講師の方を招いて、租税教室を行いました。